

授業科目	作業療法概論	科目担当者	高内 志保
学年	1 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業の概要と方法	作業療法士の役割を理解し、専門職としての意識を高めるために、作業療法に関する基礎的な内容を修得する。		
到達目標	①作業療法の定義を述べることができる。 ②理学療法士および作業療法士法について説明できる。 ③作業療法の領域と実践現場について説明できる。 ④作業療法の評価から治療に至る流れを説明できる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	作業療法とは
第 2 回	「作業」の意味
第 3 回	作業療法の歴史
第 4 回	作業療法および理学療法に関する法律
第 5 回	作業療法に関する予備知識
第 6 回	作業療法の実践現場
第 7 回	作業療法の実践現場
第 8 回	作業療法の実践現場
第 9 回	作業療法の倫理、作業療法士に求められる資質・適正
第 10 回	作業療法士の教育
第 11 回	日本作業療法士協会と WFOT
第 12 回	作業療法の実践課程
第 13 回	作業療法の実践課程
第 14 回	臨床思考過程と作業療法士の自己活用
第 15 回	まとめ
成績方法 [評価項目と割合]	授業への積極的取組 20%、筆記試験 80%
準備学習と事後学習 のアドバイス	作業療法士としての入門編です。他の専門科目に繋がる講義をします。 準備学習：教科書の該当箇所を読む 事後学習：講義の復習をする
教科書又は 参考書等	教科書：二木 淑子・能登 真一 編集：「標準作業療法学専門分野 作業療法学概論第 4 版」医学書院
オフィスアワー	職員室にて、講義終了後 30 分
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	専門職としての作業療法士とは何か、歴史や法律から役割を明確にする。活躍する場所や業務内容についてのイメージができるよう視聴覚教材などを用いて講義を行う。

授業科目	ひとと作業療法	科目担当者	後藤 一樹
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 15 時間
授業形態	講義	単位数	1 単位
授業の概要と方法	ひとが生涯を通して、どのように発達していくのか学ぶ。乳児期から高齢期までそれぞれの対象者が、人間発達の枠組みのなかで、どのような発達過程にあるのか、その過程における課題は何か、正常な発達から逸脱した発達学的問題や課題は何か、各発達過程における課題をどのように乗り換え解決していくかを学習する。 グループディスカッションへの積極的な参加を望む。		
到達目標	①人間発達の領域を理解し、人間が社会的存在であることを説明できる。 ②フロイト、エリクソン、ピアジェの発達理論を理解し、説明できる。 ③ライフステージごとの発達学的特徴を理解し、ライフステージと作業について説明できる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	総論
第 2 回	乳児期と作業
第 3 回	幼児期と作業
第 4 回	学童期と作業
第 5 回	思春期・青年期と作業
第 6 回	成人期と作業
第 7 回	壮年期と作業
第 8 回	老年期と作業
第 9 回	
第 10 回	
第 11 回	
第 12 回	
第 13 回	
第 14 回	
第 15 回	
成績方法 〔評価項目と割合〕	授業への積極的取組 20% 課題レポート 80%
準備学習と事後学習 のアドバイス	準備学習：教科書の該当箇所を読む 事後学習：授業の復習をする
教科書又は 参考書等	教科書：上杉 雅之 監修：「イラストでわかる人間発達学」医歯薬出版 教科書：山根 寛 著：「ひとと作業・作業活動新版」三輪書店
オフィスアワー	教員室にて、講義終了後 30 分
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	様々な年代を対象とする作業療法。 ライフサイクルと作業の関係について、グループディスカッションを通して、理解を深める。

授業科目	基礎作業学理論	科目担当者	高内 志保
学年	1 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業の概要と方法	作業療法で用いる作業とは何かを理解するために、日々の生活の中で行っている作業を分類し、ライフステージや性別による違いを知る。また、作業を用いた治療が行えるように、作業の分析方法を習得し、作業の利用のしかたや作業を選択する手順を理解する。 作業の治療適応のための基本理論を理解する。		
到達目標	①作業療法と作業の関係について説明できる。 ②包括的作業分析を実施できる。 ③作業の利用および作業を選択する手順を説明できる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	作業の定義・分類
第 2 回	作業の意味・形態・機能
第 3 回	作業分析とは
第 4 回	作業活動
第 5 回	包括的作業分析
第 6 回	包括的作業分析
第 7 回	作業の利用
第 8 回	作業の選択
第 9 回	作業の適応
第 10 回	理論と作業
第 11 回	理論と作業
第 12 回	指導法
第 13 回	集団活動
第 14 回	集団活動
第 15 回	まとめ
成績方法 〔評価項目と割合〕	授業への積極的取組 20%、筆記試験 80%
準備学習と事後学習 のアドバイス	準備学習：教科書の該当箇所を読む 事後学習：専門用語の理解をするために、言葉の意味を調べ、講義の復習をする
教科書又は 参考書等	教科書：山根 寛 著：「ひとと作業・作業活動新版」三輪書店 教科書：浅沼 辰志 編集：「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業学第3版」メジカルビュー社
オフィスアワー	職員室、講義終了後
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	作業とは何か。経験を通して実感できるよう講義を行う。 作業分析、作業を選択する手順の基礎を講義する。

授業科目	作業療法基礎演習Ⅰ	科目担当者	高内志保・油田あゆみ・宮尾京介
学年	1 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	作業療法士として、人体の形態的特徴や構造、およびその機能や働きを理解することは必須である。 この科目では、専門基礎分野で学ぶ「解剖学Ⅰ」「生理学Ⅰ」「運動学Ⅰ」を関連付けて、“解剖生理学（動物機能）”と“運動機能学（上肢）”を演習形式で学習する。		
到達目標	①医学用語や常用漢字についての意味を理解し、説明ができる。 ②基礎医学について学習し、理解を深めることができる。		

授 業 計 画	内 容		
第 1 回	解剖生理学（動物機能）骨格筋①	グループワーク	高内
第 2 回	解剖生理学（動物機能）骨格筋②	グループワーク	高内
第 3 回	運動機能学（上肢）骨・関節・筋①	グループワーク	高内
第 4 回	運動機能学（上肢）骨・関節・筋②	グループワーク	高内
第 5 回	骨格筋、（上肢）骨・関節・筋	確認テスト	高内
第 6 回	運動機能学（体幹・下肢）骨・関節・筋①	グループワーク	宮尾
第 7 回	運動機能学（体幹・下肢）骨・関節・筋②	グループワーク	宮尾
第 8 回	運動機能学（体幹・下肢）骨・関節・筋③	グループワーク	宮尾
第 9 回	解剖生理学（植物機能）代謝、内分泌	グループワーク	宮尾
第 10 回	（体幹・下肢）骨・関節・筋、代謝、内分泌	確認テスト	宮尾
第 11 回	解剖生理学（植物機能）循環器系①	グループワーク	油田
第 12 回	解剖生理学（植物機能）循環器系②	グループワーク	油田
第 13 回	解剖生理学（植物機能）循環器系③	グループワーク	油田
第 14 回	解剖生理学（植物機能）呼吸器系①	グループワーク	油田
第 15 回	循環器系・呼吸器系	確認テスト	油田
成績評価の方法 [評価項目と割合]	確認テスト 90%、主体的学習態度 10%		
準備学習と事後学習 のアドバイス	準備学習：提示された課題について、語句の読み方や意味を確認しておいてください。 事後学習：解剖学・生理学・運動学の講義プリントや教科書を用いて、確認テストに向け復習してください。		
教科書又は 参考書等	教科書：佐藤 達夫 監修：「新版からだの地図帳」講談社 適宜、プリントも配布		
オフィスアワー	講義終了後、職員室		
教員の実務経験	作業療法士		
実務経験を活かした 教育内容	「解剖学Ⅰ」「生理学Ⅰ」「運動学Ⅰ」で学んだ内容について、演習を通して知識の定着を促す。		

授業科目	作業療法基礎演習Ⅱ	科目担当者	岩本 凌・上原佳代・後藤一樹
学年	1 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	作業療法士として、人体の形態的特徴や構造、およびその機能や働きを理解することは必須である。この科目では、専門基礎分野で学ぶ「解剖学」「生理学」を関連付けて、“解剖生理学（植物機能）”と“解剖生理学（動物機能）”を演習形式で学習する。		
到達目標	①医学用語や常用漢字についての意味を理解し、説明ができる。 ②基礎医学について学習し、理解を深めることができる。		

授 業 計 画	内 容		
第 1 回	解剖生理学（動物機能）中枢神経系①	グループワーク	岩本
第 2 回	解剖生理学（動物機能）中枢神経系②	グループワーク	岩本
第 3 回	解剖生理学（動物機能）末梢神経系①	グループワーク	岩本
第 4 回	解剖生理学（動物機能）末梢神経系②	グループワーク	岩本
第 5 回	解剖生理学（動物機能）中枢神経系・末梢神経系	確認テスト	岩本
第 6 回	解剖生理学（植物機能）消化器系①	グループワーク	上原
第 7 回	解剖生理学（植物機能）消化器系②	グループワーク	上原
第 8 回	解剖生理学（植物機能）泌尿器系①	グループワーク	上原
第 9 回	解剖生理学（植物機能）泌尿器系②	グループワーク	上原
第 10 回	解剖生理学（植物機能）消化器系・泌尿器系	確認テスト	上原
第 11 回	解剖生理学（動物機能）感覚	グループワーク	後藤
第 12 回	解剖生理学（植物機能）発生と組織	グループワーク	後藤
第 13 回	人間発達学（反射・反応）	グループワーク	後藤
第 14 回	人間発達学（運動発達）	グループワーク	後藤
第 15 回	解剖生理学（動物機能）感覚・発生と組織，人間発達学（反射・反応）（運動発達）	確認テスト	後藤
成績評価の方法 [評価項目と割合]	確認テスト 90%、主体的学習態度 10%		
準備学習と事後学習 のアドバイス	準備学習：提示された課題について、語句の読み方や意味を確認しておいてください。 事後学習：解剖学・生理学の講義プリントや教科書を用いて、確認テストに向け復習してください。		
教科書又は 参考書等	教科書：佐藤 達夫 監修：「新版からだの地図帳」講談社 適宜、プリントも配布		
オフィスアワー	講義終了後、職員室		
教員の実務経験	作業療法士		
実務経験を活かした 教育内容	「解剖学Ⅱ」「生理学Ⅱ」で学んだ内容について、演習を通して知識の定着を促す。		

授業科目	作業療法基礎演習Ⅲ	科目担当者	岩本 凌・上原 佳代・後藤 一樹
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	作業療法士として、人体の形態の特徴や構造、およびその機能や働きを理解することは必須である。 この科目では、1 年次で学んだ「解剖学Ⅰ」「生理学Ⅰ」「運動学Ⅰ」を関連付けて、“解剖生理学（動物機能）”と“運動機能学（上肢）”を演習形式で学習する。		
到達目標	①医学用語や常用漢字についての意味を理解し、活用できる。 ②基礎医学について学習し、理解を深めることができる。		

授 業 計 画	内 容		
第 1 回	解剖生理学（動物機能）骨格筋①	グループワーク	岩本
第 2 回	解剖生理学（動物機能）骨格筋②	グループワーク	岩本
第 3 回	運動機能学（上肢）骨・関節・筋①	グループワーク	岩本
第 4 回	運動機能学（上肢）骨・関節・筋②	グループワーク	岩本
第 5 回	骨格筋、（上肢）骨・関節・筋	確認テスト	岩本
第 6 回	運動機能学（体幹・下肢）骨・関節・筋①	グループワーク	上原
第 7 回	運動機能学（体幹・下肢）骨・関節・筋②	グループワーク	上原
第 8 回	運動機能学（体幹・下肢）骨・関節・筋③	グループワーク	上原
第 9 回	解剖生理学（植物機能）代謝、内分泌	グループワーク	上原
第 10 回	（体幹・下肢）骨・関節・筋、代謝、内分泌	確認テスト	上原
第 11 回	解剖生理学（植物機能）循環器系①	グループワーク	後藤
第 12 回	解剖生理学（植物機能）循環器系②	グループワーク	後藤
第 13 回	解剖生理学（植物機能）循環器系③	グループワーク	後藤
第 14 回	解剖生理学（植物機能）呼吸器系①	グループワーク	後藤
第 15 回	循環器系・呼吸器系	確認テスト	後藤
成績方法 〔評価項目と割合〕	確認テスト 90%、主体的学習態度 10%		
準備学習と事後学習 のアドバイス	準備学習：提示された課題は、解剖学・生理学・運動学の講義プリントや教科書を用いて説明できるよう準備しておいてください。 事後学習：確認テストに向け復習してください。		
教科書又は 参考書等	教科書：佐藤 達夫 監修：「新版からだの地図帳」講談社 適宜、プリントも配布		
オフィスアワー	講義終了後、職員室		
教員の実務経験	作業療法士		
実務経験を活かした 教育内容	「解剖学Ⅰ」「生理学Ⅰ」「運動学Ⅰ」で学んだ内容について、演習を通して知識の定着を促し、疾患へと結びつけます。		

授業科目	作業療法基礎演習Ⅳ	科目担当者	高内 志保・宮尾 京介 油田 あゆみ
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	作業療法士として、人体の形態的特徴や構造、およびその機能や働きを理解することは必須である。この科目では、1 年次で学んだ「解剖学」「生理学」を関連付けて、“解剖生理学（植物機能）”と“解剖生理学（動物機能）”を演習形式で学習する。		
到達目標	①医学用語や常用漢字についての意味を理解する。 ②基礎医学について学習し、理解を深めることができる。		

授 業 計 画	内 容		
第 1 回	解剖生理学（動物機能）中枢神経系①	グループワーク	高内
第 2 回	解剖生理学（動物機能）中枢神経系②	グループワーク	高内
第 3 回	解剖生理学（動物機能）末梢神経系①	グループワーク	高内
第 4 回	解剖生理学（動物機能）末梢神経系②	グループワーク	高内
第 5 回	解剖生理学（動物機能）中枢神経系・末梢神経系	確認テスト	高内
第 6 回	解剖生理学（植物機能）消化器系①	グループワーク	宮尾
第 7 回	解剖生理学（植物機能）消化器系②	グループワーク	宮尾
第 8 回	解剖生理学（植物機能）泌尿器系①	グループワーク	宮尾
第 9 回	解剖生理学（植物機能）泌尿器系②	グループワーク	宮尾
第 10 回	解剖生理学（植物機能）消化器系・泌尿器系	確認テスト	宮尾
第 11 回	解剖生理学（動物機能）感覚	グループワーク	油田
第 12 回	解剖生理学（植物機能）発生と組織	グループワーク	油田
第 13 回	人間発達学（反射・反応）	グループワーク	油田
第 14 回	人間発達学（運動発達）	グループワーク	油田
第 15 回	解剖生理学（動物機能）感覚・発生と組織，人間発達学（反射・反応）（運動発達）	確認テスト	油田
成績方法 〔評価項目と割合〕	確認テスト 90%、主体的学習態度 10%		
準備学習と事後学習 のアドバイス	準備学習：提示された課題は、解剖学・生理学・運動学の講義プリントや教科書を用いて説明できるよう準備しておいてください。 事後学習：確認テストに向け復習してください。		
教科書又は 参考書等	教科書：佐藤 達夫 監修：「新版からだの地図帳」講談社 適宜、プリントも配布		
オフィスアワー	講義終了後、職員室		
教員の実務経験	作業療法士		
実務経験を活かした 教育内容	「解剖学Ⅱ」「生理学Ⅱ」「運動学Ⅱ」で学んだ内容について、演習を通して知識の定着を促す。		

授業科目	作業療法総合演習	科目担当者	高内志保 油田あゆみ 宮尾京介 岩本 凌 上原佳代 後藤一樹
学年	3 年	学期/時間数	後期 / 90 時間
授業形態	演習	単位数	3 単位
授業の概要と方法	今まで学んできた知識を整理し、国家試験問題の解説ができるように、グループ学習を行う。 グループ担当教員と連携をとり、学修状況を共有する。 実力テストや模擬試験を実施し、各自の理解度や苦手な点を明らかにし、国家試験合格を目指す。		
到達目標	①専門基礎科目の知識を理解し、説明できる。 ②専門科目の知識を理解し、説明できる。 ③作業療法士として必要な知識を身につける。		

授業計画	内 容	授業計画	内 容	授業計画	内 容
第 1 回	国家試験対策講座	第 16 回	運動学：演習	第 31 回	作業療法治療学 (身障領域) ：演習
第 2 回	解剖生理学 (動物) ：演習	第 17 回		第 32 回	
第 3 回		第 18 回		第 33 回	
第 4 回		第 19 回	精神医学 臨床心理学：演習	第 34 回	実力テスト⑤
第 5 回	病理学 内科学 ：演習	第 20 回		第 35 回	作業療法治療学 (精神領域) ：演習
第 6 回		第 21 回		第 36 回	
第 7 回		第 22 回	実力テスト③	第 37 回	
第 8 回	実力テスト①	第 23 回	基礎作業療法学：演習	第 38 回	実力テスト⑥
第 9 回	解剖生理学 (植物) ：演習	第 24 回		第 39 回	
第 10 回		第 25 回		第 40 回	
第 11 回		第 26 回		第 41 回	模擬試験 1
第 12 回	整形外科学	第 27 回	実力テスト④	第 42 回	模擬試験 2
第 13 回	神経内科学	第 28 回		第 43 回	模擬試験 3
第 14 回	リハ医学 ：演習	第 29 回		第 44 回	模擬試験 4
第 15 回	実力テスト②	第 30 回	(身障領域) ：演習	第 45 回	模擬試験 5
成績評価の方法 〔評価項目と割合〕	実力テスト 6 回分と模擬試験 5 回分の得点の平均が 6 割以上で合格とする。				
準備学習と事後学習 のアドバイス	準備学習：課題の遂行 事後学習：間違い問題を復習する。自宅学習およびグループ学習に、積極的に取り組むこと。				
教科書又は 参考書等	教科書： 医歯薬出版編：「理学療法士・作業療法士国家試験必須ポイント専門基礎分野 基礎医学」医歯薬出版 医歯薬出版編：「理学療法士・作業療法士国家試験必須ポイント専門基礎分野 臨床医学」医歯薬出版 医歯薬出版編：「理学療法士・作業療法士国家試験必須ポイント 基礎 OT 学」医歯薬出版 医歯薬出版編：「理学療法士・作業療法士国家試験必須ポイント 障害別 OT 治療学」医歯薬出版 医療情報科学研究所編：「クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説 共通問題」メディックメディア 医療情報科学研究所編：「クエスチョン・バンク 作業療法士 国家試験問題解説 専門問題」メディックメディア				
オフィスアワー	随時可能				
教員の実務経験	作業療法士				
実務経験を活かした 教育内容	国家試験対策としての学習方法の指導を行う。				

授業科目	臨床実習指導 I	科目担当者	高内志保・油田あゆみ・宮尾京介 岩本 凌・上原佳代
学年	1 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	臨床見学実習にむけて、職業人としての常識的行動や責任ある行動、対象者およびスタッフへの適切な対応と望ましい人間関係、施設における他職種連携について、講義とグループワークによって理解する。また、臨床見学実習では、コミュニケーション中心の介入となるため、コミュニケーションスキルについても理解する。		
到達目標	①見学実習の心得と、求められる課題を理解できる。 ②職業人・医療人としての常識的行動・態度を理解できる。 ③見学実習に行くための知識・技能を身につける。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	臨床実習（見学実習）の概要（実習録を使用しオリエンテーション） 岩本
第 2 回	職業人としての常識的行動・態度（身だしなみ/接遇）、作業療法士の倫理（守秘義務/礼節/個人情報保護） 宮尾
第 3 回	実習施設の概要（調べ方と演習）、実習施設の機能と役割 宮尾
第 4 回	実習施設における作業療法士の役割について、報告連絡相談の方法、多職種連携 高内
第 5 回	リスク管理（標準予防策（手洗い・マスクの付け方）、転倒予防）（OSCE） 演習 上原
第 6 回	見学時のマナー、自己紹介、コミュニケーション（OSCE） 演習 油田
第 7 回	介助方法（車いすの移動介助・部位名称と機能）（OSCE）① 演習 高内
第 8 回	介助方法（車いすの移動介助・部位名称と機能）（OSCE）② 演習 高内
第 9 回	実技試験 OSCE 上原
第 10 回	実技試験 OSCE 油田
第 11 回	実技試験 OSCE 高内
第 12 回	見学実習での学習目標について、実習生プロフィールの作成① 岩本
第 13 回	実習生プロフィールの作成② 岩本
第 14 回	見学実習における必要書類（実習記録、報告書含む）の説明と作成方法、電話での確認事項、電話のかけ方、礼状の書き方 岩本
第 15 回	フィードバック（実習直前の最終確認事項含む） 岩本
成績方法 〔評価項目と割合〕	実技試験およびレポート 70%、授業への積極的取組 30%
準備学習と事後学習 のアドバイス	見学実習の内容について、臨床見学実習録も用い復習しておいて下さい。
教科書又は 参考書等	実習録 他、特に指定はなく、適宜プリント配布
オフィスアワー	講義終了後、教室もしくは職員室
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	実際の対象者を想定しながら演習を行います。また繰り返しの指導を行い、知識・技能の定着を図ります。

授業科目	臨床実習指導Ⅱ	科目担当者	油田 あゆみ・宮尾 京介 岩本 凌・上原 佳代
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	臨床実習における接遇や態度、記録および管理について理解を深める。 作業療法の実践場面で必要とされる各評価法を対象者に説明できるよう、評価の意義をレポートにまとめる。 また、実践を意識した実技練習を繰り返し、評価技術を身につける。		
到達目標	①臨床実習に参加するための接遇・態度や記録・管理について理解できる。 ②臨床実習で必要となる基本的技能を身につける。 ③評価の意義と目的について説明できる。 ④実際の対象者を想定し、各検査測定を説明・実施できる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	療法士面接について 上原
第 2 回	作業療法評価法（COPM） 実技演習 宮尾
第 3 回	作業療法評価法（ROM 測定） 実技演習 油田
第 4 回	作業療法評価法（MMT）① 実技演習 油田
第 5 回	作業療法評価法（MMT）② 実技演習 油田
第 6 回	作業療法評価法（形態測定） 実技演習 宮尾
第 7 回	作業療法評価法（ブルーストロームスケーラ） 実技演習 岩本
第 8 回	作業療法評価法（SIAS） 実技演習 岩本
第 9 回	作業療法評価法（腱反射） 実技演習 宮尾
第 10 回	作業療法評価法（感覚検査） 実技演習 宮尾
第 11 回	作業療法評価法（筋緊張検査） 実技演習 岩本
第 12 回	作業療法評価法（疼痛評価） 実技演習 岩本
第 13 回	実技試験 OSCE ① 宮尾
第 14 回	実技試験 OSCE ② 油田
第 15 回	実技試験 OSCE ③ 岩本
成績方法 〔評価項目と割合〕	実技試験およびレポート 70%、授業への積極的取組 30%
準備学習と事後学習 のアドバイス	様々な領域において実習で必要になる知識・技能です。しっかりと身に着け実習に臨んでください。
教科書又は 参考書等	必要に応じて提示する
オフィスアワー	授業終了後、教室もしくは職員室
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	実際の対象者を想定しながら演習を行います。また繰り返しの指導を行い、知識・技能の定着を図ります。

授業科目	臨床実習指導Ⅲ	科目担当者	高内志保 油田あゆみ 宮尾京介 岩本 凌 上原佳代 後藤一樹
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 60 時間
授業形態	演習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	地域作業療法実習の事前学習として、「在宅支援サービス事業所（通所リハ・訪問リハ）」の概要、「地域作業療法の役割とプロセス」について理解する。 作業療法の実践場面で必要とされる各評価法を対象者に説明できるよう、評価の意義をレポートにまとめる。 実践を意識した実技練習を繰り返し、評価技術を身につける。 また、地域実習後に報告会を行い、実習での成果を報告する。		
到達目標	①臨床実習に参加するための接遇・態度や記録・管理について理解できる。 ②通所リハビリテーションおよび訪問リハビリテーションの概要を理解できる。 ③地域および在宅サービスにおける作業療法士の役割とプロセスについて理解できる。 ④評価の意義と目的について説明できる。 ⑤実際の対象者を想定し、各検査測定を説明・実施できる。 ⑥介護保険制度について理解できる。 ⑦生活行為を支援する作業療法の思考過程を理解できる。		

授 業 計 画	内 容			
第 1 回	オリエンテーション（個人情報保護・接遇）	宮尾	第 16 回	作業療法評価法演習（知的機能） 後藤
第 2 回	地域実習での学習目標と実習施設の概要	宮尾	第 17 回	実技試験 OSCE 上原
第 3 回	地域作業療法実習の必要書類の作成	宮尾	第 18 回	実技試験 OSCE 油田
第 4 回	介護保険制度について	高内	第 19 回	実技試験 OSCE 高内
第 5 回	通所および訪問リハビリテーションの概要と役割	宮尾	第 20 回	実技試験 OSCE 後藤
第 6 回	生活行為向上マネジメント 概要	後藤	第 21 回	作業療法評価法演習（コミュニケーション） 後藤
第 7 回	生活行為向上マネジメント 使い方	後藤	第 22 回	作業療法評価法演習（バランス） 岩本
第 8 回	生活行為向上マネジメント 実施	後藤	第 23 回	作業療法評価法演習（上肢機能検査） 岩本
第 9 回	物理療法について	岩本	第 24 回	作業療法評価法演習（協調性検査） 後藤
第 10 回	作業療法評価法演習（バイタル測定）	上原	第 25 回	作業療法評価法演習（高次脳機能検査）上原
第 11 回	作業療法評価法演習（リスク管理）	上原	第 26 回	作業療法評価法演習（高次脳機能検査）上原
第 12 回	作業療法評価法演習（移乗介助）	油田	第 27 回	実技試験 OSCE 後藤
第 13 回	作業療法評価法演習（歩行補助具）	油田	第 28 回	実技試験 OSCE 岩本
第 14 回	作業療法評価法演習（BI）	高内	第 29 回	実技試験 OSCE 上原
第 15 回	作業療法評価法演習（FIM）	高内	第 30 回	地域実習報告会 宮尾
成績評価の方法 〔評価項目と割合〕	実技試験およびレポート 60%、地域実習報告会 30%、授業への積極的取組 10%			
準備学習と事後学習 のアドバイス	様々な領域において実習で必要になる知識・技能です。しっかりと身に着け実習に臨んでください。			
教科書又は 参考書等	教科書：日本作業療法士協会編集：「作業療法マニュアル 75 生活行為向上マネジメント改訂第 4 版」			
オフィスアワー	随時可能			
教員の実務経験	作業療法士			
実務経験を活かした 教育内容	実際の対象者を想定しながら演習を行います。また繰り返しの指導を行い、知識・技能の定着を図ります。			

授業科目	臨床実習指導Ⅳ	科目担当者	高内志保 油田あゆみ 宮尾京介 岩本 凌 上原佳代 後藤一樹
学年	3 年	学期/時間数	前期 / 60 時間
授業形態	演習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	評価実習および総合臨床実習前後のオリエンテーション、事前学習、事例検討を行う。 事例検討ではお互いに質疑を出し合いながら理解を深め合う。 臨床実習前後に総合 OSCE を実施する。 実習経験をレジュメにまとめ、実習終了後に報告する。 実習経験をまとめ、総合臨床実習終了後にポスター発表する。		
到達目標	①臨床実習に必要な評価技能を修得する。 ②評価実習・総合臨床実習の経験を報告することができる。 ③発表テーマに沿った先行研究・参考文献・周辺研究等の資料を探ることができる。		

授 業 計 画	内 容		
第 1 回	オリエンテーション・実技演習 高内	第 16 回	総合臨床実習 2 期事前学習 岩本
第 2 回	総合 OSCE① 油田・岩本	第 17 回	総合臨床実習 2 期オリエンテーション 高内
第 3 回	総合 OSCE② 高内・上原	第 18 回	総合 OSCE④ 油田・岩本
第 4 回	総合 OSCE③ 宮尾・後藤	第 19 回	総合 OSCE⑤ 高内・上原
第 5 回	評価実習オリエンテーション 高内	第 20 回	総合 OSCE⑥ 宮尾・後藤
第 6 回	評価実習後 事例検討① 発表 油田	第 21 回	ポスター発表オリエンテーション (研究倫理・研究方法) 高内
第 7 回	事例検討② 発表 後藤	第 22 回	報告事例・テーマの決定 油田
第 8 回	事例検討③ 発表 宮尾	第 23 回	先行研究・周辺研究の調査① 岩本
第 9 回	事例検討④ 発表 上原	第 24 回	先行研究・周辺研究の調査② 上原
第 10 回	総合臨床実習 1 期事前学習 岩本	第 25 回	ポスター作製① 宮尾
第 11 回	総合臨床実習 1 期オリエンテーション 高内	第 26 回	ポスター作製② 岩本
第 12 回	1 期後 事例検討① 発表 油田	第 27 回	ポスター作製③ 後藤
第 13 回	事例検討② 発表 後藤	第 28 回	ポスター作製④ 上原
第 14 回	事例検討③ 発表 宮尾	第 29 回	ポスター発表⑤ 宮尾
第 15 回	事例検討④ 発表 上原	第 30 回	ポスター発表⑥ まとめ 油田
成績評価の方法 [評価項目と割合]	OSCE 20%、ポスター発表内容・取り組み 40%、事例検討の積極的取り組み 40%		
準備学習と事後学習 のアドバイス	実習に向けて積極的に取り組んでください。 ポスター発表は本学院での学習の集大成です。よき思い出になるよう取り組んでください。		
教科書又は 参考書等	臨床実習録 参考書：渡邊宗孝・寺見春恵・他 著：「PT・OT のための統計学入門」三輪書店		
オフィスアワー	随時		
教員の実務経験	作業療法士		
実務経験を活かした 教育内容	事例に基づいた作業療法介入実践を指導する。また、臨床実習における経験を、先行研究・参考文献に基づいて論理的に集約することを指導する。		

授業科目	作業療法管理学	科目担当者	宮尾 京介
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業の概要と方法	作業療法を実践するにあたり必要となる資源（人、物、金、知識など）を適切に用いるための計画、実行、統制について講義する。 また、「作業療法士の職業倫理」や作業療法を実践する中での「予測可能なリスク管理」、「多職種連携の重要性」について講義する。		
到達目標	①リハビリテーションにおける「管理」の重要性を理解し、説明できる。 ②作業療法士に関連する法制度（医療保険制度、介護保険制度など）の理解を深める。 ③組織（病院・介護保険関連施設）における作業療法士の業務と役割について理解できる。 ④作業療法士に求められる職場管理・リスクマネジメントを理解できる。 ⑤チーム医療・多職種連携の重要性を理解できる。 ⑥作業療法教育に必要な能力や、職業倫理を高める必要性を理解できる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	リハビリテーションにおける管理
第 2 回	各組織と関連法規の基礎知識
第 3 回	作業療法士の職業倫理
第 4 回	リスク管理①（医療安全）
第 5 回	リスク管理②（ハラスメント・健康管理）
第 6 回	組織における作業療法士の役割と理解
第 7 回	作業療法業務におけるマネジメント①
第 8 回	作業療法業務におけるマネジメント②
第 9 回	作業療法と医療サービス
第 10 回	社会保障制度（医療・介護・福祉）
第 11 回	多職種連携①
第 12 回	多職種連携②
第 13 回	チームマネジメント
第 14 回	卒前・卒後教育とキャリア形成
第 15 回	まとめ
成績方法 〔評価項目と割合〕	定期試験 80%、レポート 10%、授業への積極的取組 10%
準備学習と事後学習 のアドバイス	「障害と福祉」や「地域作業療法学」で学習した医療保険および介護保険制度について復習しておいてください。
教科書又は 参考書等	教科書：大庭 潤平 編著：「作業療法管理学入門 第2版」医歯薬出版 参考書：齋藤 昭彦・他 編：「PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション管理学」羊土社 参考書：斉藤 秀之・他 編：「リハビリテーション管理学」医学書院 参考書：澤田 辰徳・他 編：「作業で結ぶマネジメント」医学書院
オフィスアワー	講義終了後 教員室
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	作業療法士としての臨床経験とマネジメント研究科での知識を踏まえ、作業療法士に求められる「管理」について講義する。

授業科目	作業療法評価法総論	科目担当者	宮尾 京介・上原 佳代
学年	1 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業の概要と方法	作業療法における評価について、その目的や意義、そして評価を実施するうえで必要とされる態度や知識について学習することを目的とする。また、作業療法が提供されるまでの過程について学習する。		
到達目標	①作業療法評価の意味・必要性を理解し、説明することができる。 ②作業療法が提供されるまでの過程を理解し、説明することができる。 ③作業療法における主要な評価を理解し、説明することができる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	評価の意味と目的 宮尾
第 2 回	評価の時期・流れ 宮尾
第 3 回	評価の記録方法 宮尾
第 4 回	行動評価と面接評価（COPM） 宮尾
第 5 回	ランドマーク・触診① 宮尾
第 6 回	ランドマーク・触診① 宮尾
第 7 回	ランドマーク・触診② 宮尾
第 8 回	形態測定① 宮尾
第 9 回	形態測定② 宮尾
第 10 回	ROM 測定① 総論 上原
第 11 回	ROM 測定② 上原
第 12 回	ROM 測定③ 上原
第 13 回	ROM 測定④ 上原
第 14 回	上肢機能検査（STEF） 上原
第 15 回	まとめ 上原
成績評価の方法 [評価項目と割合]	確認テスト 50%、定期試験 40%、授業の積極的取り組み 10%
準備学習と事後学習 のアドバイス	評価では骨や筋などの人体構造を理解しておく必要があります。解剖学や運動学の教科書で予習・復習しておきましょう。
教科書又は 参考書等	教科書：能登 真一・他 編：「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学第 3 版」医学書院 参考書：その他専門書及び文献（随時紹介）
オフィスアワー	講義終了後、教員室
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	根拠に基づく作業療法を提供するための基礎となる評価の意義や目的を理解し、主要な評価方法について講義する。

授業科目	作業療法基礎評価法	科目担当者	上原 佳代
学年	1 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	疾患・障害を問わず行われる作業療法領域共通の基礎的な評価について学ぶ。 基礎技法について、デモンストレーションを行いディスカッションしながら理解を進めていく。 実技を繰り返し行い、必要な基礎的手技を身につける。		
到達目標	①基礎的な評価の意義と目的を述べることができる。 ②基礎的な評価を列举し、その測定法について説明することができる。 ③基礎的な評価に必要な物品や環境を設定できる。 ④基礎的な評価を実施できる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	評価技法 徒手筋力検査法 ① 総論
第 2 回	評価技法 徒手筋力検査法 ②
第 3 回	評価技法 徒手筋力検査法 ③
第 4 回	評価技法 徒手筋力検査法 ④
第 5 回	評価技法 徒手筋力検査法 ⑤
第 6 回	評価技法 徒手筋力検査法 ⑥
第 7 回	評価技法 徒手筋力検査法 ⑦
第 8 回	評価技法 感覚検査①
第 9 回	評価技法 感覚検査②
第 10 回	評価技法 反射検査
第 11 回	評価技法 バランス検査
第 12 回	評価技法 筋緊張検査
第 13 回	評価技法 協調性検査
第 14 回	評価技法 脳神経検査
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	講義の積極的取組 10%、課題遂行 10%、定期試験(筆記試験・実技試験)80%
準備学習と事後学習 のアドバイス	評価は治療プログラム立案の基礎となります。演習は課題毎のデモンストレーションをもとに実施していきます。 与えられた課題に関しては予習をし、講義に臨んでください。 また、実習した内容は学生同士で必ず復習し、その都度理解してください。
教科書又は 参考書等	教科書：能登 真一・他 編：「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学第3版」医学書院 教科書：津山 直一・中村 耕三 訳：「新・徒手筋力検査法 原著第10版」協同医書出版社 参考書：田崎 義昭・他 著：「ベッドサイドの神経の診かた 改訂第 18 版」南山堂 参考書：日本作業療法士協会 監修：「作業療法学全書改訂第 3 版第 3 巻 作業療法評価学」協同医書出版社
オフィスアワー	講義終了後 教員室
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	作業療法領域共通の基礎的な評価法について、実技を交えながら授業を行う。

授業科目	作業療法評価法身体領域	科目担当者	油田あゆみ・宮尾京介・岩本 凌
学年	1 年	学期/時間数	後期 / 45 時間
授業形態	講義・演習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	1. 身体領域疾患の症状・障害を理解する。身体領域疾患の評価法について学ぶ。 2. 身体領域疾患の評価技術を身につける。 3. グループディスカッションを行い、評価法や評価技術に関する理解を深める。		
到達目標	①身体領域疾患の症状や障害に合わせた必要な評価項目を列挙することができる。 ②評価の技術と測定結果から障害の程度を解釈することができる。		

授 業 計 画	内 容	授 業 計 画	内 容
第 1 回	身体領域における作業療法評価と総論 脳血管疾患の症状と障害、画像評価	第 15 回	整形疾患（上肢）の評価②
		第 16 回	整形疾患（下肢・体幹）の評価
第 2 回	脳血管障害の評価①	第 17 回	呼吸器疾患の症状と障害、画像評価
第 3 回	脳血管障害の評価②	第 18 回	呼吸器疾患の評価①
第 4 回	脳血管障害の評価③	第 19 回	呼吸器疾患の評価②
第 5 回	脊髄損傷の症状と障害、画像評価	第 20 回	代謝性疾患の症状と障害の評価
第 6 回	脊髄損傷の評価①	第 21 回	関節リウマチの症状と障害、画像評価
第 7 回	脊髄損傷の評価②	第 22 回	神経筋疾患の症状と障害の評価
第 8 回	心疾患の症状と障害、画像評価	第 23 回	まとめ
第 9 回	心疾患の評価		
第 10 回	パーキンソン病の症状と障害	【担当】	
第 11 回	パーキンソン病の評価①	岩本	第 1 回－第 4 回、第 17 回－第 20 回
第 12 回	パーキンソン病の評価②	油田	第 5 回－第 9 回、第 21 回
第 13 回	整形疾患の症状と障害、画像評価	宮尾	第 10 回-第 16 回、第 22 回、第 23 回
第 14 回	整形疾患（上肢）の評価①		
成績評価の方法 [評価項目と割合]	授業の積極的取り組み 10%、課題・提出物・小テスト 10%、定期試験 80%		
準備学習と事後学習 のアドバイス	教科書を予習に利用し積極的に取り組んでください。 クラスメイトと実技評価の練習を積極的に取り組んでください。		
教科書又は 参考書等	教科書：岩崎 テル子 編集：「標準作業療法学 身体機能作業療法学第 4 版」医学書院 教科書：能登 真一・他 編：「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学第 3 版」医学書院 教科書：医療情報科学研究所 編：「病気がみえる vol.7 脳・神経第 2 版」メディックメディア 教科書：医療情報科学研究所 編：「病気がみえる vol.11 運動器・整形外科」メディックメディア 教科書：道免 和久 著：「脳卒中機能評価・予後予測マニュアル」医学書院 教科書：二瓶 隆一・他 編著：「頸髄損傷のリハビリテーション改訂第 3 版」協同医書出版社		
オフィスアワー	講義終了後 教員室		
教員の実務経験	作業療法士		
実務経験を活かした 教育内容	身体領域における作業療法の代表的な対象疾患を学習点とし、疾患の概要の理解と疾患別作業療法評価法について講義する。		

授業科目	作業療法評価法精神領域	科目担当者	後藤 一樹
学年	1 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	精神科作業療法における評価法を学ぶ。 演習から評価基準、手順を明確にする。		
到達目標	① 精神科作業療法で役立つ構成的、非構成的な評価を学習し説明できる。 ② 精神科領域に関連する他職種の評価の視点を学び、作業療法士の役割を考えられる。 ③ 精神科作業療法評価の実践能力を身に付けることができる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	精神科作業療法における評価、総論①
第 2 回	精神科作業療法における評価、総論②
第 3 回	精神科作業療法の構成的評価の実践① OSA
第 4 回	精神科作業療法の構成的評価の実践② OSA の演習
第 5 回	精神科作業療法の構成的評価の実践③ ACIS
第 6 回	精神科作業療法の構成的評価の実践④ VQ、OQ
第 7 回	精神科作業療法の構成的評価の実践⑤ ナラティブ、興味、役割
第 8 回	精神科作業療法の構成的評価の実践⑥ 作業遂行、ADL、LASMI
第 9 回	精神科作業療法の構成的評価の実践⑦ 演習
第 10 回	精神科作業療法の構成的評価の実践⑧ 精神機能の評価
第 11 回	精神科作業療法の非構成的評価の実践① インテーク
第 12 回	精神科作業療法の非構成的評価の実践② 面接、観察
第 13 回	精神科作業療法の非構成的評価の実践③ 演習
第 14 回	精神科作業療法の非構成的評価の実践④ 他部門情報の収集
第 15 回	まとめ
成績方法 〔評価項目と割合〕	レポート 20% 定期試験 80%
準備学習と事後学習 のアドバイス	講義資料は講義回ごとにファイルにとじ、インデックスをつける等の工夫をすることで、評価の流れがあとからでも把握できるように整理してください。 また、講義にはカラーマーカーを用意して教科書を活用するようにしてください。
教科書又は 参考書等	教科書：能登 真一・他 編：「標準作業療法学専門分野 作業療法評価学第 3 版」医学書院
オフィスアワー	講義終了後 教員室
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	作業療法士として精神科領域での勤務の経験を基に実践に即した講義を行う。

授業科目	作業療法評価法発達領域	科目担当者	油田 あゆみ・高内 志保
学年	1 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	作業療法を实践する上で基礎となる知識を学習する。 対象児の臨床像を把握し、治療を適切なものにするための評価の意義および、代表的発達検査を学ぶ。 子どもの発達像をもっとも反映する『遊び』の意味を知り、子供の保育場面を実際に観察することで、発達過程を学んでゆく。		
到達目標	①典型的発達の過程を理解できる。 ②発達検査の意義と目的を説明できる。 ③発達検査の使用方法が分かる。 ④発達障害における作業療法の基礎的手段としてのあそびの意義と活用について理解することができる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	発達障害概論、典型的発達指標① 油田
第 2 回	典型的発達指標② 油田
第 3 回	典型的発達指標③ 油田
第 4 回	典型的発達指標④ 油田
第 5 回	典型的発達指標⑤ 油田
第 6 回	典型的発達指標⑥ 油田
第 7 回	発達検査① 油田
第 8 回	発達検査② 高内
第 9 回	発達検査③ [演習] 高内
第 10 回	子どもの発達とあそび① 高内
第 11 回	子どもの発達とあそび② [演習] 高内
第 12 回	評価としてのあそびの可能性 高内
第 13 回	幼稚園演習 ① ～ 子どもとあそび 高内
第 14 回	幼稚園演習 ② ～ 子どもとあそび 高内
第 15 回	まとめ 高内
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験 90%、レポート 10%
準備学習と事後学習 のアドバイス	対象児の臨床像を捉えるためには、まず典型的発達を知ることが重要です。前回の講義内容を復習し、講義に臨んでください。幼稚園演習では、子どもの生活の中心にある『作業』は何かという視点で観察をしましょう。
教科書又は 参考書等	教科書：上杉 雅之 監修：「イラストでわかる人間発達学」医歯薬出版 教科書：長崎 重信 監修：「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 改訂第3版」メジカルビュー 教科書：能登 真一・他 編：「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学第3版」医学書院 参考書：岩崎 清隆 著：「発達障害の作業療法 基礎編 第2版」および 同「実践編」三輪書店
オフィスアワー	講義終了後 教員室
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	典型発達の基礎知識・発育相談の臨床経験をもとに、発達の個別性を尊重する視点を育てる。

授業科目	動作分析学	科目担当者	岩本 凌
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	人の動きに関する、正常動作の基礎知識を学び、動作分析について理解できる。 グループ毎に、各動作の動作分析を実施する。 動作分析した内容をレポートにまとめる。		
到達目標	①動作分析の方法(観察評価・三次元動作解析装置等)を理解できる。 ②動作分析に必要な知識・技術を身につけることができる。 ③正常動作パターンを理解し、評価することができる。 ④実際に動作分析を行い、結果の解釈ができる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	動作分析学 総論
第 2 回	姿勢と動作
第 3 回	姿勢分析①
第 4 回	姿勢分析②
第 5 回	基本動作の動作分析演習（寝返り）①
第 6 回	基本動作の動作分析演習（寝返り）②
第 7 回	基本動作の動作分析演習（起き上がり）①
第 8 回	基本動作の動作分析演習（起き上がり）②
第 9 回	基本動作の動作分析演習（立ち上がり）①
第 10 回	基本動作の動作分析演習（立ち上がり）②
第 11 回	基本動作の動作分析演習（着座）①
第 12 回	基本動作の動作分析演習（着座）②
第 13 回	基本動作の動作分析演習（歩行）①
第 14 回	基本動作の動作分析演習（歩行）②
第 15 回	まとめ
成績方法 〔評価項目と割合〕	授業の積極的取り組み 10%、課題・提出物・小テスト 20%、定期試験 70%
準備学習と事後学習 のアドバイス	運動学・解剖学を基に、正常および疾患特有の動作パターンを学習していきます。基礎知識を再度見直し、実際に動きを真似ながら動作の理解を深めていきましょう。動作分析をするためには、十分な観察力と考察力が必要です。日頃からヒトの動作に興味を持ち、分析する癖をつけておきましょう。
教科書又は 参考書等	教科書：中村 隆一・斉藤 宏 著：「基礎運動学第 6 版」医歯薬出版 教科書：石井 慎一郎 著：「動作分析 臨床活用講座」メジカルビュー社 各講義の配布資料
オフィスアワー	職員室にて講義終了後 30 分
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	運動学・解剖学の基礎知識を確認し、正常および片麻痺患者の動作パターンを分析する観察力を修得できるように授業を行う。

授業科目	作業療法身体領域Ⅰ	科目担当者	宮尾 京介・岩本 凌
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 45 時間
授業形態	講義・演習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	1. 身体領域疾患の症状と障害に対するリスク管理に配慮した治療・指導・援助方法（ADL）を学ぶ。 2. 身体領域疾患の治療戦略に基づく予後予測を理解する。 3. 治療・指導・援助方法の概要を授業で学んだ後、グループディスカッションで理解を深める。		
到達目標	①疾患ごとの障害特性について説明できる。 ②疾患ごとの予後について説明できる。 ③疾患ごとの作業療法について説明・模擬実践できる。		

授 業 計 画	内 容			
第 1 回	作業療法の支援/指導/援助 岩本	第 16 回	神経筋疾患の支援/指導/援助⑧	宮尾
第 2 回	脳血管障害の支援/指導/援助の実際① 岩本	第 17 回	神経筋疾患の支援/指導/援助⑨	宮尾
第 3 回	脳血管障害の支援/指導/援助の実際② 岩本	第 18 回	整形疾患の支援/指導/援助①	宮尾
第 4 回	脳血管障害の支援/指導/援助の実際③ 岩本	第 19 回	整形疾患の支援/指導/援助②	宮尾
第 5 回	脳血管障害の支援/指導/援助の実際④ 岩本	第 20 回	整形疾患の支援/指導/援助③	宮尾
第 6 回	脳血管障害の支援/指導/援助の実際⑤ 岩本	第 21 回	整形疾患の支援/指導/援助④	宮尾
第 7 回	脳血管障害の治療計画① 岩本	第 22 回	整形疾患の支援/指導/援助⑤	宮尾
第 8 回	脳血管障害の治療計画② 岩本	第 23 回	まとめ	宮尾
第 9 回	神経筋疾患の支援/指導/援助① 宮尾			
第 10 回	神経筋疾患の支援/指導/援助② 宮尾			
第 11 回	神経筋疾患の支援/指導/援助③ 宮尾			
第 12 回	神経筋疾患の支援/指導/援助④ 宮尾			
第 13 回	神経筋疾患の支援/指導/援助⑤ 宮尾			
第 14 回	神経筋疾患の支援/指導/援助⑥ 宮尾			
第 15 回	神経筋疾患の支援/指導/援助⑦ 宮尾			
成績評価の方法 [評価項目と割合]	授業の積極的取り組み 10%、課題レポートまたは小テスト 30%、定期試験 60%			
準備学習と事後学習 のアドバイス	1 年生後期の作業療法評価法身体領域の知識・技術を基礎とした作業療法の支援・指導・援助を学んでいきます。復習を積極的に取り組んでください。			
教科書又は 参考書等	教科書：矢谷 玲子 監修：「標準作業療法学 身体機能作業療法学第 4 版」医学書院 教科書：医療情報科学研究所 編：「病気がみえる vol.7 脳・神経第 2 版」メディックメディア 教科書：医療情報科学研究所 編：「病気がみえる vol.11 運動器・整形外科」メディックメディア 教科書：道免 和久 著：「脳卒中機能評価・予後予測マニュアル」医学書院 教科書：二瓶 隆一・他 編著：「頸髄損傷のリハビリテーション改訂第 3 版」協同医書出版社			
オフィスアワー	講義終了後 教員室			
教員の実務経験	作業療法士			
実務経験を活かした 教育内容	臨床で担当する機会の多い各疾患における病態、評価、基本的な治療計画からアプローチまでを実践を踏まえ講義する。			

授業科目	作業療法身体領域Ⅱ	科目担当者	油田 あゆみ・岩本 凌
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 45 時間
授業形態	講義・演習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	作業療法の身体機能領域における代表的な疾患について、病態や障害像を理解し、評価から作業療法実施までの一連の流れと治療・指導・援助方法、リスク管理について授業・グループディスカッションを行い、理解することを目的とする。		
到達目標	①身体障害を中心とした疾患の病態、障害像を理解し、説明することができる。 ②身体障害を中心とした疾患のリスクを理解できる。 ③各疾患における評価方法について理解し、実施することができる。 ④各疾患の症状と生活を捉え、介入や支援方法を考え、理解できる。 ⑤喀痰の吸引を実施することができる。		

授 業 計 画	内 容				
第 1 回	脊髄損傷の支援/指導/援助の実際①	油田	第 16 回	呼吸器疾患の支援/指導/援助②	岩本
第 2 回	脊髄損傷の支援/指導/援助の実際②	油田	第 17 回	呼吸器疾患の支援/指導/援助③	岩本
第 3 回	脊髄損傷の支援/指導/援助の実際③	油田	第 18 回	代謝性疾患の支援/指導/援助	岩本
第 4 回	脊髄損傷の支援/指導/援助の実際④	油田	第 19 回	代謝性疾患の支援/指導/援助②	岩本
第 5 回	脊髄損傷の支援/指導/援助の実際⑤	油田	第 20 回	悪性腫瘍の支援/指導/援助①	岩本
第 6 回	脊髄損傷の治療計画①	油田	第 21 回	悪性腫瘍の支援/指導/援助②	岩本
第 7 回	脊髄損傷の治療計画②	油田	第 22 回	悪性腫瘍の支援/指導/援助③	岩本
第 8 回	関節リウマチの支援/指導/援助の実際①	油田	第 23 回	まとめ	油田
第 9 回	関節リウマチの支援/指導/援助の実際②	油田			
第 10 回	関節リウマチの支援/指導/援助の実際③	油田			
第 11 回	関節リウマチの治療計画	油田			
第 12 回	心疾患の支援/指導/援助の実際①	油田			
第 13 回	心疾患の支援/指導/援助の実際②	油田			
第 14 回	心疾患の治療計画	油田			
第 15 回	呼吸器疾患の支援/指導/援助①	岩本			
成績評価の方法 [評価項目と割合]	授業の積極的取り組み 10%、小テスト及び課題 10%、定期試験 80%				
準備学習と事後学習 のアドバイス	上記（授業内容）の各疾患について復習しておきましょう。 また、治療・指導・援助を行うには対象者の理解と作業活動の特性および活用方法について関連性をもって学習することが大切です。今まで学習してきた作業療法評価や基礎作業学についても復習しておきましょう。				
教科書又は 参考書等	教科書：矢谷 玲子 監修：「標準作業療法学 身体機能作業療法学第 4 版」医学書院 教科書：医療情報科学研究所 編：「病気がみえる vol.7 脳・神経 第 2 版」メディックメディア 教科書：医療情報科学研究所 編：「病気がみえる vol.11 運動器・整形外科」メディックメディア 参考書：その他専門書及び文献（適宜紹介）				
オフィスアワー	講義終了後 教員室				
教員の実務経験	作業療法士				
実務経験を活かした 教育内容	身体領域における作業療法の代表的な対象疾患を学習点とし、疾患の概要の理解と疾患別作業療法（評価から治療までの一連の過程）について講義する。				

授業科目	作業療法精神領域Ⅰ	科目担当者	後藤 一樹
学年	2 年	/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業の概要と方法	精神科作業療法における歴史、精神科作業療法を理解していくために体系化された理論やその評価を学ぶ。 本授業ではこれらの知識をもとに国家試験や実際の臨床現場で関わることの多い疾患に着目し、疾患別の作業療法について学習していく。		
到達目標	① 精神科作業療法の歴史を理解する。 ② 疾患別の精神科作業療法を学び、クライアントの障害に応じた作業療法をイメージすることができる。 ③ 精神障害者が抱える作業機能障害について理解する。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	作業療法の歴史
第 2 回	精神科作業療法の総論、評価①
第 3 回	精神科作業療法の総論、評価②
第 4 回	精神科作業療法の総論、評価③
第 5 回	精神科作業療法の総論、評価④
第 6 回	疾患別作業療法：統合失調症の回復過程における作業療法①
第 7 回	疾患別作業療法：統合失調症の回復過程における作業療法②
第 8 回	疾患別作業療法：長期入院の統合失調症における作業療法
第 9 回	疾患別作業療法：パーソナリティ障害における作業療法
第 10 回	疾患別作業療法：気分障害における作業療法①
第 11 回	疾患別作業療法：気分障害における作業療法②
第 12 回	疾患別作業療法：神経症性における作業療法①
第 13 回	疾患別作業療法：神経症性における作業療法②
第 14 回	疾患別作業療法：アルコール依存症における作業療法
第 15 回	まとめ
成績方法 〔評価項目と割合〕	筆記試験 100%
準備学習と事後学習 のアドバイス	授業前は講義範囲の教科書を熟読してください。 講義資料は重要な箇所にカラーマーカーで目立つようにするなどの工夫をして、学習後は復習してください。
教科書又は 参考書等	教科書：山根 寛 編：「精神障害と作業療法〔新版〕病いを生きる、病いと生きる 精神認知系作業療法の理論と実践」三輪書店
オフィスアワー	講義終了後、教員室
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	疾患別の精神科作業療法における基本的知識を教授する。

授業科目	作業療法精神領域Ⅱ	科目担当者	後藤 一樹
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	精神科作業療法の実践について講義を行う。 これまで学んだ知識を基に評価、疾患別の作業療法の応用を学ぶ。 演習では、模擬的なクライアントへの評価～プログラム立案、考察までのレポート作成を行う。		
到達目標	① 模擬的にクライアントに対して作業療法プログラムを立案することができる。 ② 精神科作業療法の仕組みや流れを理解することができる。 ③ 評価や情報収集をもとに模擬的な作業療法の実践ができる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	前期の振り返り、後期講義の概要
第 2 回	精神科 OT のプロセス、リーズニング
第 3 回	精神科 OT の仕組み
第 4 回	精神科 OT の実践について①
第 5 回	精神科 OT の実践について②
第 6 回	精神科 OT の実践について③
第 7 回	症例検討①
第 8 回	症例検討②
第 9 回	模擬実習①
第 10 回	模擬演習②
第 11 回	模擬演習③
第 12 回	模擬演習④
第 13 回	模擬演習⑤
第 14 回	模擬演習⑥
第 15 回	まとめ
成績方法 [評価項目と割合]	レポート 50% 筆記試験 50%
準備学習と事後学習 のアドバイス	前期で講義で配布した資料や教科書を熟読して、疾患別の作業療法を復習してください。 症例検討や模擬実習では積極的に質疑を行い、ディスカッションを行ってください。
教科書又は 参考書等	教科書：山口 芳文・他 編：「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学第 3 版」メジカルビュー社
オフィスアワー	講義終了後、教員室
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	模擬的な演習を通し、評価から実践までの具体的に講義する。

授業科目	作業療法発達領域Ⅰ	科目担当者	森光 洋子
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業の概要と方法	作業療法の対象となる代表的発達障害領域における、作業療法アプローチの基礎を学ぶ。 また、それらを生活障害の視点からとらえ、こどもの生活を支援する作業療法士の基本的視点を学ぶ。 特別支援学校の見学から、発達の課題を有する子どもの生活の場を理解する。		
到達目標	発達の各領域における作業療法の概要を理解できる。 子ども生活の場を具体的に理解できる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	発達障害に対する作業療法概論
第 2 回	感覚統合機能に対するアプローチ ①
第 3 回	感覚統合機能に対するアプローチ ②
第 4 回	感覚統合機能に対するアプローチ ③
第 5 回	姿勢・運動発達とその背景
第 6 回	姿勢と移動の援助：脳性麻痺を中心に ①
第 7 回	姿勢と移動の援助：脳性麻痺を中心に ②
第 8 回	姿勢と移動の援助：脳性麻痺を中心に ③
第 9 回	進行性筋ジストロフィー
第 10 回	知的障害
第 11 回	摂食嚥下障害
第 12 回	二分脊椎
第 13 回	被虐待児への作業療法
第 14 回	特別支援教育
第 15 回	まとめ
成績方法 〔評価項目と割合〕	筆記試験 90% レポート課題 10%
準備学習と事後学習 のアドバイス	講義前の事前学習として教科書を読んでみましょう。そうすることで講義への関心が高まります。また、配布プリントは毎回、ファイルにきちんととじていくようにしましょう。
教科書又は 参考書等	教科書：長崎 重信 監修：「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学改訂第2版」 メディカルビュー社 教科書：上杉 雅之 監修：「イラストでわかる人間発達学」医歯薬出版株式会社 参考書：岩崎 清隆 著：「発達障害の作業療法 基礎編第2版」三輪書店 参考書：岩崎 清隆 著：「発達障害の作業療法 実践編第2版」三輪書店
オフィスアワー	講義終了後 教員室
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	知的障害者施設や特別支援学校等での臨床経験をもとに発達期の生活障害を支援する視点を伝える。

授業科目	作業療法発達領域Ⅱ	科目担当者	古野 優子・三木 美樹 岩下 範子・曾根川 達司
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	発達に障害を持つ対象者の特性、評価法、作業療法について講義をする。 ビデオを使用して、症例の評価、活動分析を行う。評価結果に基づいて、治療目標を設定する。 方法については、パワーポイントによるプレゼンテーションの利用とグループワークと発表、理解度確認（小テスト、ミニレポート）		
到達目標	①代表的な小児の疾患についてそれぞれの発達の特徴が理解できる。 ②代表的な小児の疾患についての必要な評価を学ぶ。 ③代表的な小児の疾患について状態像の分析・治療計画の立案を経験する。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	発達分野の作業療法評価 ① (曾根川)
第 2 回	発達分野の作業療法評価 ② (曾根川)
第 3 回	脳性麻痺児の評価および治療 ① (曾根川)
第 4 回	脳性麻痺児の評価および治療 ② (曾根川)
第 5 回	脳性麻痺児の評価および治療 ③ (三木)
第 6 回	脳性麻痺児の評価および治療 ④ (三木)
第 7 回	重度心身障害児の作業療法 (岩下)
第 8 回	知的障害の作業療法 (岩下)
第 9 回	小児疾患の作業療法 ① (岩下)
第 10 回	小児疾患の作業療法 ② (岩下)
第 11 回	発達障害児の評価 ① (曾根川)
第 12 回	発達障害児の評価 ② (曾根川)
第 13 回	発達障害児の問題点の分析、治療目標の設定 ① (古野)
第 14 回	発達障害児の問題点の分析、治療目標の設定 ② (古野)
第 15 回	発達障害児の治療の実際 (古野)
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験 80%、小テスト・レポート 20%
準備学習と事後学習 のアドバイス	授業の際に、次回の単元を伝えますので、教科書を用いた予習をして下さい。 グループワークには、自分の意見を持って臨んで下さい。
教科書又は 参考書等	テキスト 神作 一実 編：「作業療法学 ゴールド・マスターテキスト 発達障害作業療法学」メジカルビュー社 参考書：1 年時使用テキスト 参考書：「標準作業療法学 作業療法評価学第 3 版」医学書院
オフィスアワー	講義終了後 講師控室
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	発達に障害を持つ対象者の特性、評価法、作業療法について動画や教科書を用いてパワーポイントにて講義をする。

授業科目	作業療法高次脳機能領域	科目担当者	上原 佳代
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業の概要と方法	脳の神経解剖学の観点から高次脳機能および障害の特徴を学ぶ。 高次脳機能障害を把握するための神経心理学的評価法を学ぶ。 高次脳機能障害の支援・指導・援助の手段について学ぶ。		
到達目標	① 高次脳機能に関係する脳のしくみについて、画像情報も活用しながら理解できる。 ② 高次脳機能障害によって起こる対象者の生活上の問題を理解し述べることができる。 ③ 高次脳機能障害に関する作業療法の基礎知識・各種評価法について理解し列挙することができる。 ④ 高次脳機能障害の支援・指導・援助の手段について計画を立てることができる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	高次脳機能障害総論
第 2 回	脳画像所見の見方（CT・MRI）
第 3 回	注意障害の症状と障害の評価
第 4 回	注意障害の症状と障害に対する支援・指導・援助
第 5 回	記憶障害の症状と障害の評価
第 6 回	記憶障害の症状と障害に対する支援・指導・援助
第 7 回	失語症の症状と障害の評価
第 8 回	失語症の症状と障害に対する支援・指導・援助
第 9 回	失行の症状と障害の評価
第 10 回	失行の症状と障害に対する支援・指導・援助
第 11 回	失認の症状と障害の評価
第 12 回	失認の症状と障害に対する支援・指導・援助
第 13 回	遂行機能障害の症状と障害の評価
第 14 回	遂行機能障害の症状と障害に対する支援・指導・援助
第 15 回	まとめ
成績方法 〔評価項目と割合〕	授業の積極的取り組み 10%、課題・小テスト 10%、定期試験 80%
準備学習と事後学習 のアドバイス	高次脳機能障害に関する知識を作業療法でどのように応用するかを考え、学んでください。 課題に取り組み、各障害の特徴や評価、介入の基本について理解しましょう。
教科書又は 参考書等	教科書：潤 雅子 編：「作業療法学全書 改訂第 3 版 第 8 巻 作業療法学 5 高次脳機能障害 <日本作業療法士協会監>」協同医書出版社 教科書：医療情報科学研究所 編：「病気がみえる vol.7 脳・神経第 2 版」メディックメディア 参考書：石合純夫：「高次脳機能障害学 第 3 版」医歯薬出版株式会社 参考書：鈴木孝治 編：「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 第 3 版 高次脳機能障害作業療法学」メジカルビュー社
オフィスアワー	講義終了後 教員室
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	脳損傷によって生じる高次脳機能障害について、脳の機能を理解し、障害特性を理解した評価、介入の基礎を講義する。

授業科目	作業療法高齢期領域Ⅰ	科目担当者	宮尾 京介
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業の概要と方法	「高齢者を取りまく状況」や「高齢者の心身の特性」といった高齢期領域で作業療法を実践するために最低限必要な基礎知識を学習する。また、作業療法実践の基本である人権と尊厳について理解し、高齢期での作業療法の目的と役割について学習する。 学習理解度の確認として、適宜、小テストを行う。		
到達目標	①高齢社会および社会制度を理解できる。 ②高齢期の特徴を説明できる。 ③高齢期の作業療法の目的と役割を説明できる。 ④介護保険サービス（施設・在宅）における作業療法の目的や役割、業務を理解し、説明できる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	高齢社会
第 2 回	高齢期の課題
第 3 回	高齢者関連の社会制度
第 4 回	高齢期の一般的特徴
第 5 回	高齢期に多い疾患
第 6 回	高齢期作業療法の実践課程①
第 7 回	高齢期作業療法の実践課程②
第 8 回	高齢期作業療法の評価①
第 9 回	高齢期作業療法の評価②
第 10 回	病期に応じた治療・援助内容の違い
第 11 回	施設サービスにおける作業療法の役割（介護老人保健施設）
第 12 回	施設サービスにおける作業療法の役割（介護老人福祉施設）
第 13 回	在宅サービスにおける作業療法の役割（通所リハビリテーション）
第 14 回	在宅サービスにおける作業療法の役割（訪問リハビリテーション）
第 15 回	まとめ
成績方法 〔評価項目と割合〕	定期試験 80%、小テスト or 課題 10%、講義の積極的な取り組み 10%
準備学習と事後学習 のアドバイス	「整形外科学」や「内科学」、「神経内科学」等で学んだ高齢者に多い疾患の基礎知識を復習しておいてください。 「障害と福祉」で学んだ介護保険制度について復習しておいてください。
教科書又は 参考書等	教科書：松房 利憲・他 編：「標準作業療法学専門分野 高齢期作業療法学第3版」医学書院 参考書：浅海 奈津美・守口恭子・他 編：「老年期の作業療法改定第3版」三輪書店
オフィスアワー	講義終了後 教員室
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	高齢者を取りまく背景や高齢者の心身の特性、更には施設サービスおよび在宅サービス、介護事業での臨床経験を生かし、高齢者領域における作業療法の実践に必要な知識や技術を講義する。

授業科目	作業療法高齢期領域Ⅱ	科目担当者	高内 志保
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	認知症高齢者と認知症に対する作業療法の役割を理解する。 認知症高齢者に対する評価の目的と方法を学習する。 グループで事例検討を行い、認知症高齢者に対する作業療法の実際を理解する。 施設見学では、認知症高齢者への関わり方を学び、日常生活活動の観察評価、知的機能評価を実践する。		
到達目標	①認知症の症状を説明できる。 ②認知症のタイプと特徴を説明できる。 ③認知症をもつ高齢者に対する作業療法を説明できる。 ④各評価の目的と方法について説明できる。 ⑤認知症高齢者の日常生活活動の観察評価、知的機能評価を実施し、評価の解釈ができる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	高齢社会と認知症
第 2 回	認知症の定義と分類
第 3 回	認知症の症状
第 4 回	認知症のタイプと特徴（Alzheimer 型認知症、脳血管性認知症）
第 5 回	認知症のタイプと特徴（Lewy 小体型認知症、前頭側頭型認知症）
第 6 回	認知症の評価①
第 7 回	認知症の評価② 演習
第 8 回	認知症の作業療法①
第 9 回	認知症の作業療法②
第 10 回	認知症の作業療法③
第 11 回	事例検討 グループワーク
第 12 回	事例検討 グループワーク
第 13 回	施設見学
第 14 回	施設見学
第 15 回	まとめ
成績方法 〔評価項目と割合〕	授業の積極的取組 10%、課題・提出物 20%、定期試験 70%
準備学習と事後学習 のアドバイス	分からない言葉の意味を調べる。前回の授業内容を復習して授業に参加してください。 また、わからないことは質問するよう心掛けてください。
教科書又は 参考書等	教科書：小川 敬之・他 編：「認知症の作業療法第 2 版ソーシャルインクルージョンをめざして」医歯薬出版 教科書：大塚 俊男・本間 昭 監：「高齢者のための知的機能検査の手引き」ワールドプランニング 参考書：能登 真一・他 編：「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学第 3 版」医学書院
オフィスアワー	講義終了後 教員室
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	高齢者をとりまく背景や高齢者の心身の特性、認知症の理解と支援といった高齢者領域での作業療法を実践するための知識や技術を講義する。

授業科目	作業療法治療学演習Ⅰ	科目担当者	上原 佳代・宮尾 京介 油田 あゆみ
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	①身体領域疾患として脳血管疾患を模擬事例に取り上げ。その症状に合わせた評価計画を立案する。 ②脳血管疾患の症状の評価結果から臨床推論を学ぶ。 ③脳血管疾患の症状・障害に対する ICF を使用して全体像把握までの一連の流れを学ぶ。 ④①-③を、教員のフィードバックを受けながら模擬事例のレポート作成することで実践的に学ぶ。 ⑤国家試験問題（専門）を通して、身体領域疾患介入に必要な基本知識、特に国試ベースで求められる知識を中心に復習し、演習に取り組む。		
到達目標	・ 作業療法における『初期評価から問題点の焦点化まで』の一連の流れを理解できる。 ① 得られた情報や作業療法評価結果を報告書に記載できる。 ② 得られた情報や作業療法評価から全体像を捉えられる。 ・ 国家試験問題（専門）を主材とした学習を通して、疾患別、障害別作業療法の適用に関する基本知識を身につける。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	模擬事例 脳血管疾患に対する臨床推論 回復期（事例提示・疾患の基礎知識） 上原
第 2 回	脳血管疾患に対する臨床推論 回復期（評価項目の列挙・評価結果の解釈） 宮尾
第 3 回	脳血管疾患に対する臨床推論 回復期（全体像の把握・ICF） 油田
第 4 回	国家試験（専門）対策（作業療法評価学） 演習 上原
第 5 回	国家試験（専門）対策（作業療法評価学） 演習 上原
第 6 回	国家試験（専門）対策（作業療法評価学） 演習 上原
第 7 回	国家試験（専門）対策（作業療法評価学）確認テスト 上原
第 8 回	国家試験（専門）対策（神経筋） 演習 宮尾
第 9 回	国家試験（専門）対策（内部障害） 演習 宮尾
第 10 回	国家試験（専門）対策（内部障害） 演習 宮尾
第 11 回	国家試験（専門）対策（神経筋・内部障害）確認テスト 宮尾
第 12 回	国家試験（専門）対策（地域作業療法学） 演習 油田
第 13 回	国家試験（専門）対策（自助具） 演習 油田
第 14 回	国家試験（専門）対策（福祉用具） 演習 油田
第 15 回	国家試験（専門）対策（地域作業療法学・自助具・福祉用具）確認テスト 油田
成績方法 〔評価項目と割合〕	課題レポートの提出内容 30%、確認テスト 60%、出席及び演習の積極的取組 10%
準備学習と事後学習 のアドバイス	作業療法学を学んできた知識を総合的に活用する必要があります。 特に、作業療法評価法身体領域の評価結果の解釈を積極的に復習してください。
教科書又は 参考書等	教科書：九州作業療法士学校連絡協議会 編：「事例研究報告書作成指針（ICF モデル）2005」 担当から資料を準備する。 その他専門書及び文献（随時紹介）
オフィスアワー	講義終了後 教員室
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	ペーパーペーシェントを通じて、作業療法の一連の流れを指導する。 国家試験を解くのに必要な知識の整理と理解を促します。

授業科目	作業療法治療学演習Ⅱ	科目担当者	高内志保・岩本 凌・後藤一樹
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	① 模擬事例の症状に合わせた評価計画を立案する。 ② 模擬事例の症状の評価結果から臨床推論を学ぶ。 ③ 模擬事例の症状・障害に対する ICF を使用したまとめと問題点の焦点化・目標設定・プログラム立案・考察の一連の流れを学ぶ。 ④ ①-③を、教員のフィードバックを受けながら模擬事例のレポート作成することで実践的に学ぶ。 ⑤ 国家試験問題（専門）を通して、対象者への介入に必要な基本知識、特に国試ベースで求められる知識を中心に復習し、演習に取り組む。		
到達目標	・ 作業療法士として必要となる臨床推論の思考について ICF を使用したまとめと問題点の焦点化・目標設定・プログラム立案・考察の一連の流れを通して理解する。 ・ 国家試験問題（専門）を主材とした学習を通して、疾患別、障害別作業療法の適用に関する基本知識を身につける。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	模擬事例に対する 臨床推論（事例提示・疾患の基礎知識・評価項目の列挙） 高内
第 2 回	臨床推論（評価結果の解釈・全体像の把握・ICF） 岩本
第 3 回	臨床推論（目標設定・プログラム立案） 後藤
第 4 回	国家試験（専門）対策（精神心理障害領域） 演習 後藤
第 5 回	国家試験（専門）対策（精神心理障害領域） 演習 後藤
第 6 回	国家試験（専門）対策（精神心理障害領域） 演習 後藤
第 7 回	国家試験（専門）対策（精神心理障害領域）確認テスト 後藤
第 8 回	国家試験（専門）対策（作業療法の基礎） 演習 高内
第 9 回	国家試験（専門）対策（作業療法の基礎） 演習 高内
第 10 回	国家試験（専門）対策（作業療法の基礎） 演習 高内
第 11 回	国家試験（専門）対策（作業療法の基礎）確認テスト 高内
第 12 回	国家試験（専門）対策（脳血管疾患） 演習 岩本
第 13 回	国家試験（専門）対策（高次脳障害） 演習 岩本
第 14 回	国家試験（専門）対策（画像） 演習 岩本
第 15 回	国家試験（専門）対策（脳血管疾患・高次脳障害・画像）確認テスト 岩本
成績方法 [評価項目と割合]	課題レポートの提出内容 30%、確認テスト 60%、出席及び演習の積極的取組 10%
準備学習と事後学習 のアドバイス	作業療法学を学んできた知識を総合的に活用する必要があります。 特に、作業療法評価法精神領域の評価結果の解釈を積極的に復習してください。
教科書又は 参考書等	担当から資料を準備する。 その他専門書及び文献（随時紹介）
オフィスアワー	講義終了後 教員室
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	ペーパーペーシェントを通じて、作業療法の一連の流れを指導する。 国家試験を解くのに必要な知識の整理と理解を促します。

授業科目	義肢装具学	科目担当者	上原 佳代
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業の概要と方法	切断や麻痺による生活障害を物理的・精神的に軽減する手段としての義肢装具の基礎的知識を学ぶ。 装具療法の基礎知識および疾患との適応を学ぶ。		
到達目標	①義肢・装具の構成要素と機能・構造が理解できる。 ②疾患・障害と義肢・装具の適合が説明できる。 ③義肢・装具のチェックアウトのポイントが把握できる。 ④生活障害を補う義肢・装具療法の意義を理解できる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	義肢装具学概論、義肢総論
第 2 回	義手①
第 3 回	義手②
第 4 回	義手③
第 5 回	義手④
第 6 回	義足①
第 7 回	義足②
第 8 回	装具総論
第 9 回	疾患・障害別装具/脳血管障害
第 10 回	疾患・障害別装具/脳性麻痺・小児疾患
第 11 回	疾患・障害別装具/手の外科疾患・末梢神経損傷・骨折
第 12 回	疾患・障害別装具/頸髄損傷
第 13 回	疾患・障害別装具/関節リウマチ
第 14 回	疾患・障害別装具/熱傷とスプリント療法・体幹装具
第 15 回	まとめ
成績方法 〔評価項目と割合〕	課題・提出物 10%、定期試験 90 %
準備学習と事後学習 のアドバイス	義肢装具学は、生活障害を補完する技術として、作業療法において重要な分野です。 義肢装具にはさまざまな種類のものがありますが、個々の部品や種類の名前を確実に覚えてください。 義肢装具の適応となる診断名や手術法等を整形外科の教科書を開けて調べることを心がけてください。
教科書又は 参考書等	教科書：長崎 重信 監修：「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 義肢装具学」 メジカルビュー社 教科書：中田 真由美・大山 峰生 著：「作業療法士のためのハンドセラピー入門 第2版」三輪書店 参考書：高橋 邦泰、芳賀 信彦 編：「整形外科テキスト 第4版」南江堂
オフィスアワー	講義終了後 職員室
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	講師の臨床経験をもとに、義肢装具の適応・構造だけでなく、作業療法士が行う義肢装具のある日常生活支援を講義する。

授業科目	義肢装具学演習	科目担当者	森光 洋子・宿輪 秀範
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	スプリントの作成について、評価、作成、チェックアウトまでを演習する。 義肢装具士による義手のチェックアウト及び操作方法を演習する。 作業療法士の視点から手の外科（ハンドセラピー）の評価及び装具療法について演習する。		
到達目標	①装具作成の手順を理解し、作成からチェックアウトまでを実施できる。 ②義手のチェックアウトができる。 ③ハンドセラピーにおける評価を実施できる。 ④解剖学・運動学の基礎知識を基に作業療法士の視点でハンドセラピーを理解する。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	スプリントの製作 講義・演習① 森光
第 2 回	スプリントの製作 演習② 森光
第 3 回	スプリントの製作 演習③ 森光
第 4 回	スプリントの製作 演習④ 森光
第 5 回	スプリントの製作 演習⑤ 森光
第 6 回	スプリントの製作 演習⑥ 森光
第 7 回	スプリントのチェックアウト 演習 森光
第 8 回	義手のチェックアウト 講義 森光
第 9 回	義手のチェックアウト演習① 宿輪
第 10 回	義手のチェックアウト演習② 宿輪
第 11 回	義手のチェックアウト演習③ 森光
第 12 回	ハンドセラピーと装具療法 講義 森光
第 13 回	ハンドセラピーと装具療法 演習① 森光
第 14 回	ハンドセラピーと装具療法 演習② 森光
第 15 回	まとめ 森光
成績方法 〔評価項目と割合〕	実技（スプリント製作）20%、筆記試験 80%
準備学習と事後学習 のアドバイス	義肢・装具は、適応疾患に関する解剖・運動学・整形外科学等の基礎知識との関連で学習する。 テキスト及び参考書の図を正しく把握することを心がける。
教科書又は 参考書等	教科書：長崎 重信 監修：「作業療法学 ゴールドマスター・テキスト 義肢装具学」メジカルビュー社 教科書：中田 真由美・大山 峰生 著：「作業療法士のためのハンドセラピー入門第2版」三輪書店 参考書：内田 淳正 監修：「標準整形外科学」医学書院
オフィスアワー	講義終了後 教員室
教員の実務経験	森光洋子：作業療法士、宿輪秀範：義肢装具士
実務経験を活かした 教育内容	ベッドサイドで実施する装具療法から生活場面での義手のチェックアウトまで、一貫して作業療法士の役割を講義してゆく。

授業科目	基礎作業学技術 I	科目担当者	宮尾京介・岩本 凌・後藤一樹
学年	1 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	作業療法の治療的介入手段として使われる代表的な活動に対し実際に課題作製を行う。 課題作製においては計画から実施までグループで協力し合って主体的に行う。 課題作製を通じて、作品を完成させることがひとにどのような影響を与えるのかを体験的に学ぶ。 各活動の最後には、グループで作業遂行にあたっての必要な要素を振り返り、治療的応用等について討議を行い、各自レポートにまとめる。		
到達目標	①代表的な活動についての手順が説明できる。 ②代表的な活動の指導ができる。 ③代表的な作業の作業分析ができる。 ④代表的な作業の治療的活用方法を挙げることができる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	テーブルゲーム グループワーク 岩本
第 2 回	テーブルゲーム グループワーク 岩本
第 3 回	スポーツ(車椅子テニス見学) 岩本
第 4 回	スポーツ(車椅子テニス見学) 岩本
第 5 回	認知作業トレーニング 岩本
第 6 回	認知作業トレーニング グループ討議・まとめ 岩本
第 7 回	木工(プランニングと製図) 宮尾
第 8 回	木工(材料の選定) 宮尾
第 9 回	木工(部品の加工) 宮尾
第 10 回	木工(組み立て) 宮尾
第 11 回	木工(仕上げと塗装) グループ討議・まとめ 宮尾
第 12 回	タイルモザイク 後藤
第 13 回	タイルモザイク 後藤
第 14 回	タイルモザイク 後藤
第 15 回	タイルモザイク グループ討議・まとめ 後藤
成績方法 [評価項目と割合]	授業の積極的取組 30%、課題作品・レポート 70%
準備学習と事後学習 のアドバイス	予習として各活動に必要な材料・道具および工程を把握する。また、作業分析においては運動学や解剖学などの基礎科目の学習内容を復習し活用する。
教科書又は 参考書等	教科書：浅沼 辰志 編集：「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業学第3版」メジカルビュー社 参考書：古川 宏 監修：「作業活動 実習マニュアル第2版」医歯薬出版
オフィスアワー	講義終了後 教員室
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	臨床で用いる作業活動を実践し、作業の治療的活用について理解する授業を行う。

授業科目	基礎作業学技術Ⅱ	科目担当者	高内 志保・油田 あゆみ 岩本 凌・上原 佳代
学年	1 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	作業療法の治療的介入手段として使われる代表的な活動に対し実際に課題作製を行う。 課題作製においては計画から実施までグループで協力し合って主体的に行う。 課題作製を通じて、作品を完成させることがひとにどのような影響を与えるのかを体験的に学ぶ。 各活動の最後には、グループで作業遂行にあたっての必要な要素を振り返り、治療的応用等について討議を行い、各自レポートにまとめる。		
到達目標	①代表的な活動についての手順が説明できる。 ②代表的な活動の指導ができる。 ③代表的な作業の作業分析ができる。 ④代表的な作業の治療的活用方法を挙げることができる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	塗り絵 岩本
第 2 回	スポーツ 岩本
第 3 回	スポーツ 岩本
第 4 回	縫い物の基本 上原
第 5 回	縫い物（刺し子実施） 上原
第 6 回	縫い物（治療的応用） グループ討議・まとめ 上原
第 7 回	絵手紙 上原
第 8 回	マクラメ（材料の準備） 油田
第 9 回	マクラメ（実施） 油田
第 10 回	マクラメ（実施） 油田
第 11 回	マクラメ（仕上げ） グループ討議・まとめ 油田
第 12 回	編み物（オリエンテーション・練習） 高内
第 13 回	編み物（作品制作）① 高内
第 14 回	編み物（作品制作）② 高内
第 15 回	編み物（治療的応用） グループ討議・まとめ 高内
成績方法 〔評価項目と割合〕	授業の積極的取組 30%、課題作品・レポート 70%
準備学習と事後学習 のアドバイス	予習として各活動に必要な材料・道具および工程を把握する。基礎作業学理論で学んだ作業分析の基礎知識の復習をしておくこと。
教科書又は 参考書等	教科書：浅沼 辰志 編集：「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業学第 3 版」メジカルビュー社 参考書：古川 宏 監修：「作業活動 実習マニュアル第 2 版」医歯薬出版
オフィスアワー	講義終了後 教員室
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	臨床で用いる作業活動を実践し、作業の治療的活用について理解する授業を行う。

授業科目	基礎作業学技術Ⅲ	科目担当者	高内 志保・油田 あゆみ
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	塗り絵、陶芸、国家試験に出題される作業活動を実施する。 国家試験に出題される作業活動では活動内容の選択および計画・準備から実施までを、グループで主体的に行う課題作製を通じて、作品を完成させることがひとにどのような影響を与えるのかを体験的に学ぶ。 各活動の最後には、包括的作業分析を行い、治療的应用についてグループで討議を行い、各自レポートを作成する。 施設見学では、対象者の心身機能に合わせた作業もしかた（適応・修正）を学ぶ。		
到達目標	①作業療法の治療的介入手段として使用される作業活動について、その基本的な準備や手順について説明できる。 ②①に伴う計画、実施、また作業分析ができる。 ③具体的な指導方法、応用方法を挙げることができる。 ④疾患との関連、治療手段としての活用方法を表現することができる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	塗り絵 高内
第 2 回	塗り絵 高内
第 3 回	作業活動計画 グループワーク 高内
第 4 回	作業活動実施 高内
第 5 回	施設見学（指定障害者支援施設） 高内
第 6 回	陶芸（活動の特性） 油田
第 7 回	陶芸（作業工程） 油田
第 8 回	陶芸（練り） 油田
第 9 回	陶芸（成形） 油田
第 10 回	陶芸（成形） 油田
第 11 回	陶芸（成形） 油田
第 12 回	陶芸（素焼き） 油田
第 13 回	陶芸（釉掛け） 油田
第 14 回	陶芸（本焼き） 油田
第 15 回	グループ討議・まとめ 油田
成績方法 〔評価項目と割合〕	授業の積極的取組 10%、課題作品・レポート 20%、定期試験 70%
準備学習と事後学習 のアドバイス	予習として各活動に必要な材料・道具および工程を把握する。基礎作業学理論で学んだ作業分析の基礎知識の復習をしておくこと。各活動で担当教員が異なりますので、準備などについてはそれぞれの担当教員に確認してください。
教科書又は 参考書等	教科書：浅沼 辰志 編集：「作業療法学ゴールドマスター・テキスト 作業学改訂第 2 版」メジカルビュー社 参考書：古川 宏 監修：「作業活動実習マニュアル第 2 版」医歯薬出版
オフィスアワー	講義終了後 教員室
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	臨床で用いる作業活動を実践し、作業の治療的活用について理解する授業を行う。

授業科目	基礎作業学技術Ⅳ	科目担当者	高内 志保・上原 佳代
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	機織、革細工、レクリエーションを実施する。 機織・革細工の課題作製を通じて、作品を完成させることがひとにどのような影響を与えるのかを体験的に学ぶ。 活動最後には包括的作業分析を実施し、治療的応用についてはグループで討議を行い、各自レポートを作成する。 レクリエーションはグループ単位で内容決定及び計画（企画書作成）をすすめ、実施までを協力しながら主体的に行う。		
到達目標	①作業療法の治療的介入手段として使用される作業活動について、その基本的な準備や手順について説明できる。 ②①に伴う計画、実施、また作業分析ができる。 ③具体的な指導方法、応用方法を挙げることができる。 ④疾患との関連、治療手段としての活用方法を表現することができる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	機織 オリエンテーション 高内
第 2 回	機織 整経 高内
第 3 回	機織 機上げ 高内
第 4 回	機織 織る 高内
第 5 回	機織 仕上げ 高内
第 6 回	機織 作業分析 グループ討議・まとめ 高内
第 7 回	革細工／レクリエーション オリエンテーション 上原
第 8 回	革細工 カービングコースター① 上原
第 9 回	革細工 カービングコースター② 上原
第 10 回	革細工 金具をつけて小物を作る① 上原
第 11 回	革細工 金具をつけて小物を作る② 上原
第 12 回	革細工 仕上げ 上原
第 13 回	革細工 作業分析 グループ討議 上原
第 14 回	レクリエーション 実施（グループ発表） 上原
第 15 回	まとめ 上原
成績評価の方法 〔評価項目と割合〕	授業の積極的取組 10%、課題作品・レポート 40%、定期試験 50% なお、レクリエーションに関しては、計画から実施までの過程を評価対象とする。
準備学習と事後学習 のアドバイス	予習として各活動に必要な材料・道具および工程を把握する。基礎作業学理論で学んだ作業分析の基礎知識の復習をしておくこと。
教科書又は 参考書等	教科書：浅沼 辰志 編集：「作業療法学 ゴールドマスター・テキスト 作業学第 3 版」メジカルビュー社 参考書：古川 宏 監修：「作業活動実習マニュアル第 2 版」医歯薬出版
オフィスアワー	講義終了後 教員室
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	臨床で用いる作業活動を実践し、作業の治療的活用について理解する授業を行う。

授業科目	職業関連活動	科目担当者	上原 佳代
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 15 時間
授業形態	講義	単位数	1 単位
授業の概要と方法	職業の意義と職業リハビリテーションの実践を学ぶ。 グループワークを通して就労支援の実際を学びあう。		
到達目標	①人が働くことの意義を理解できる。 ②障害者雇用の進めるための社会資源と制度を理解できる。 ③職業リハビリテーションにおける関係機関との連携の在り方を理解できる。 ④職業リハビリテーションに必要な評価について理解できる。 ⑤事例を通して就労支援の作業療法のすすめ方が理解できる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	ひとと職業 ～ 働く意味、障害者と職業
第 2 回	障害者の就労を支える法制度 ～ 障害者雇用促進法、障害者総合支援法
第 3 回	働くことへの作業療法士のかかわり
第 4 回	職業評価
第 5 回	障害別就労支援の実際 ① 課題提示
第 6 回	障害別就労支援の実際 ② グループワーク
第 7 回	障害別就労支援の実際 ③ グループ発表
第 8 回	障害者就業・生活支援センターの障害者雇用支援について / 講義全体のまとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	授業の積極的取組 10%、課題 30%、定期試験 60%
準備学習と事後学習 のアドバイス	障害者の雇用の実情を理解し、作業療法士として職業リハビリテーションをどのように実践するかを考えられることを目標に、各講義後の復習をしてください。課題は都度提示します。
教科書又は 参考書等	教科書：中村俊彦, 他 編著：「就労支援の作業療法 ―基礎から臨床実践まで―」医歯薬出版株式会社 参考書：日本作業療法士協会 監修：「作業療法学全書 改訂第 3 版 第 12 巻 職業関連活動」協同医書出版社
オフィスアワー	講義終了後 教員室
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	就労支援の実情を理解し、職業リハビリテーションの評価から支援の考え方までを講義する。

授業科目	地域作業療法学	科目担当者	上原 佳代
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業の概要と方法	地域で生活する障害者（児）や高齢者を支援するために必要な法制度、施策を理解し、地域社会で求められる作業療法士の役割について学ぶ。 地域での様々な作業療法の実践例を通してその活動内容や役割について学び、地域との連携について理解する。		
到達目標	①生活の場である「地域」のしくみを説明できる。 ②「地域」における作業療法の役割について説明できる。 ③障害を抱えた人や高齢者が活用できる法制度、施策について説明できる。 ④様々な作業療法の実践の場での役割と連携のあり方について、述べることができる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	地域で生活すること
第 2 回	地域リハビリテーションの経緯と理念
第 3 回	地域での作業療法士の活動
第 4 回	リスク管理
第 5 回	連携と家族の理解
第 6 回	作業療法士が関与する関連法規と制度 ① 社会保障制度
第 7 回	作業療法士が関与する関連法規と制度 ② 医療システム
第 8 回	作業療法士が関与する関連法規と制度 ③ 介護保険制度-1
第 9 回	作業療法士が関与する関連法規と制度 ④ 介護保険制度-2
第 10 回	作業療法士が関与する関連法規と制度 ⑤ 障害者施策
第 11 回	各事業所の実践 ① 通所
第 12 回	各事業所の実践 ② 入所
第 13 回	各事業所の実践 ③ 予防
第 14 回	各事業所の実践 ④ 発達支援
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	授業の積極的取組 10%、課題・提出物 10%、定期試験 80 %
準備学習と事後学習 のアドバイス	これからの時代は地域が作業療法士の実践の場として多くの需要が求められています。復習中心に取り組み、わからないことは早めに解決して下さい。
教科書又は 参考書等	教科書：徳永 千尋・他 編集：「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 地域作業療法学」メジカルビュー社 教科書：医療情報科学研究所 編集：「公衆衛生がみえる 2022-2023」メディックメディア 参考書：大熊 明・他 編集：「標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学 第3版」医学書院 参考書：太田 睦美 編集：「作業療法学全書 第13巻改訂第3版 地域作業療法学」協同医書出版社
オフィスアワー	講義終了後、教員室にて
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	実践経験を伝え、地域で活躍できる作業療法士としての知識の修得を促す授業を行う。

授業科目	日常生活活動	科目担当者	高内 志保
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業の概要と方法	日常生活活動（ADL）における概念や内容を理解する。 生活関連活動（APDL）における概念や内容を理解する。 代表的な評価様式を用いた評価方法を学ぶ。 動作分析の視点を学ぶ。		
到達目標	ADL の概念や範囲を説明できる。 Barthel Index の評価方法を説明できる。 FIM の評価方法を説明できる。 ADL の動作を分析できる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	ADL の概念・範囲
第 2 回	生活関連活動の概念・範囲
第 3 回	ADL と QOL
第 4 回	ADL と国際生活機能分類
第 5 回	ADL 評価の目的と意義
第 6 回	ADL 評価（Barthel Index）
第 7 回	ADL 評価（FIM ①）
第 8 回	ADL 評価（FIM ②）
第 9 回	その他の ADL 評価
第 10 回	手段的 ADL（IADL）の評価
第 11 回	ADL の動作分析とその評価（食事）
第 12 回	ADL の動作分析とその評価（更衣）
第 13 回	ADL の動作分析とその評価（整容）
第 14 回	移乗の動作指導
第 15 回	まとめ
成績方法 [評価項目と割合]	授業への積極的取組 10%、レポート 20%、筆記試験 70%
準備学習と事後学習 のアドバイス	準備学習：教科書の熟読 事後学習：講義の見直し
教科書又は 参考書等	教科書：伊藤 利之・他 編：「新版日常生活活動（ADL）－評価と支援の実際－第 2 版」医歯薬出版 教科書：千野 直一・他 編：「脳卒中の機能評価 SIAS と FIM[基礎編]」金原出版
オフィスアワー	職員室にて、講義終了後 30 分
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	日常生活活動の支援に必要な評価や動作分析法に関する講義を行う。

授業科目	生活環境学	科目担当者	油田 あゆみ
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 30 時間
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	リハビリテーションに深くかかわる、生活環境について学ぶ。作業療法士として専門的な視点で、対象者を取り巻く生活環境をどのように捉えるのか、どのように考えるのかを学ぶ。 さらに、対象者の自立支援にあたって重要な位置づけになっている福祉用具と住環境整備に関する基礎的な知識と実践を学ぶ。		
到達目標	①福祉用具供給システムについて説明できる。 ②福祉用具のアセスメントについて説明できる。 ③主たる福祉用具について体験し、適用や選定ができる。 ④簡単な自助具が作成できる。 ⑤福祉用具種別に応じた支援の実際について説明できる。 ⑥住宅改修に基礎技術について説明できる。		

授 業 計 画	内 容
第 1 回	福祉用具の定義と範囲
第 2 回	福祉用具（起居・床上動作関連）
第 3 回	福祉用具（移乗関連）
第 4 回	福祉用具（移動関連）
第 5 回	福祉用具（食事・整容・更衣関連）
第 6 回	福祉用具（排泄・入浴関連）
第 7 回	福祉用具（コミュニケーション関連）
第 8 回	福祉用具導入対象者の援助や生活支援の場を知る
第 9 回	自助具作製のためのグループディスカッション（計画検討）
第 10 回	自助具作製の実施
第 11 回	福祉用具（疾患別 ADL）①
第 12 回	福祉用具（疾患別 ADL）②
第 13 回	住環境整備（疾患別 ADL）①
第 14 回	住環境整備（疾患別 ADL）②
第 15 回	まとめ
成績方法 〔評価項目と割合〕	レポート及び授業への積極的取組と課題 20%、筆記試験 80%
準備学習と事後学習 のアドバイス	準備学習として教科書の熟読、事後学習として講義内容の見直しを行い、理解を深めていきましょう。
教科書又は 参考書等	教科書：伊藤 利之・他 編：「新版日常生活活動（ADL）－評価と支援の実際－第2版」医歯薬出版 教科書：山中 武彦・他 編：「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 福祉用具学」メジカルビュー社 教科書：徳永 千尋・他 編集：「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 地域作業療法学」メジカルビュー社 参考書：日本作業療法士協会 監：「作業療法全書改訂第3版第10巻作業療法技術学2 福祉用具の使い方・住環境整備」協同医書出版社
オフィスアワー	講義終了後 教員室
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	日常生活活動一つ一つの活動に対し、福祉用具との適応を必要な動作と関連付けながら考える講義を行う。 実際に福祉用具に触れ、また多くの福祉用具の情報を得る場とする。

授業科目	臨床見学実習	科目担当者	高内志保・油田あゆみ・宮尾京介 岩本 凌・上原佳代・後藤一樹
学年	1 年	学期/時間数	後期 / 45 時間
授業形態	実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	医療・保健・福祉の現場で求められる様々な能力の中でも対人交流技能は、最も基本的なものであり、最も重要な能力と位置付けられるものである。 この実習では、病院での対象者や作業療法士をはじめとする職員との交流を通して、対人援助職として必要なコミュニケーションスキル及び基本的心得を習得する。		
到達目標	①医療・福祉の現場における対象者の生活を知り、考察することができる。 ②対象者を中心とした作業療法士と各職種の業務内容と職種間の連携を学び、理解することができる。 ③それぞれの施設における役割や機能を理解することができる。 ④作業療法士として必要なコミュニケーションスキルを習得することができる。		

授 業 計 画	内 容
	2023 年 9 月 11 日 (月) ～ 9 月 15 日 (金) 5 日間 病院での実習 (1 日の実習時間については各病院の規定に従う)
成績方法 [評価項目と割合]	実習評価 60%、実習報告・提出書類 40%
準備学習と事後学習 のアドバイス	臨床見学実習に臨むにあたって、これまでの学習内容を理解しておく。
教科書又は 参考書等	臨床見学実習録
オフィスアワー	実習終了後あるいは学内指導時
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	様々な現場での経験を活かし、学生とともに現場に入り対象者とのコミュニケーションを促すよう指導を行う。

授業科目	地域作業療法実習	科目担当者	高内志保 油田あゆみ 宮尾京介 岩本 凌 上原佳代 後藤一樹
学年	2 年	学期/時間数	後期 / 45 時間
授業形態	実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションの現場を、見学を通して経験することで対象者の状態や地域での生活支援を把握するとともに、対象者や施設・医療スタッフに対して適切な態度で接すること、診療チームの一員としての作業療法士としての役割について学ぶ。学内演習における作業療法評価学や作業療法治療学において得られた知識を、実際の現場で見学し、臨床実習に繋げ、問題解決能力を養うものである。		
到達目標	①対象者とのコミュニケーションを経験する ②スタンダードプリコーションが実施できる ③チェックリストに記載している項目の見学ができる ④多職種連携（チーム連携）の見学もしくは経験する。 ⑤作業療法計画の立案過程を見学し、臨床思考を養うことができる。 ⑥実施記録の意義や書類管理の重要性を理解する。		

授 業 計 画	内 容
	11 月 13 日（月）-18 日（土）のうち 5 日間を実習期間とする。 北九州・田川・行橋・中津近郊の介護老人保健施設または医療機関の通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションにて実施する。
成績方法 〔評価項目と割合〕	ループリックによる「ソーシャルスキル」評価 50%、地域実習報告会 30%、出席・提出物 20%
準備学習と事後学習 のアドバイス	コミュニケーションスキルやソーシャルスキルを学び作業療法の一部を経験し、今後の学習に活用してください。
教科書又は 参考書等	地域作業療法実習録
オフィスアワー	
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	実践に即した実習のため、臨床実習指導者と連携して指導を行う。

授業科目	臨床実習	科目担当者	高内志保 油田あゆみ 宮尾京介 岩本凌 上原佳代 後藤一樹
学年	3 年	学期/時間数	前期 / 900 時間
授業形態	実習	単位数	20 単位
授業の概要と方法	作業療法士となるために必要な知識、技術を習得し、合わせて医療従事者としての豊かな人格を育成する。 医療提供施設の他、介護保険施設、老人福祉施設、身体障害者福祉施設、児童福祉施設、指定障害福祉サービス事業所、指定障害者支援施設等において、臨床実習指導者の指導のもと実施する。 積極的に治療および作業療法介入場面を見学・模倣・実施し、作業療法の臨床思考過程を学ぶ。 また、臨床実践の過程をレジュメとして報告する。		
到達目標	・ 作業療法士となるために必要な知識、技術を習得し、合わせて医療従事者としての基本的態度を身につける。 ・ チームの一員として多職種連携の必要性を説明できる。 ・ 評価実習では、作業療法評価が見学・模倣を経て、指導者の監視下で実施できるようになり、全体像の把握・目標設定・作業療法プログラムの立案ができる。 ・ 総合臨床実習では、作業療法プログラムの見学・模倣を経て、指導者の監視下で実施できる。		

授 業 計 画	内 容
	評価実習 令和 5 年 4 月 10 日（月）～5 月 6 日（土）4 週間（180 時間） 総合臨床実習 1 期 令和 5 年 5 月 15 日（月）～7 月 8 日（土）8 週間（360 時間） 総合臨床実習 2 期 令和 5 年 7 月 17 日（月）～9 月 9 日（土）8 週間（360 時間）
成績方法 〔評価項目と割合〕	実習成績評価と実習前後の OSCE、実習報告、巡回指導時の内容、提出書類などで総合的に評価する。
準備学習と事後学習 のアドバイス	学内で学んできた基礎的な知識をもとに、作業療法の臨床実践をしっかりと学んでください。 臨床で経験するすべての事柄が貴重な学習の場であることを理解して積極的に取り組むことを期待します。
教科書又は 参考書等	臨床実習録 1 年次、2 年次までの全ての科目で用いた教科書・参考書・配布資料
オフィスアワー	随時可能
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	実践に即した実習のため、臨床実習指導者と連携して指導を行う。